

令和6年度 Active Directory及び認証局システム機器等賃貸借

No.	項目名等	質問内容	回答内容
1	<p>仕様書 (P.25) 4-4-2 詳細設計 (バックアップ方式)</p>	<p>遠隔地バックアップ (2次バックアップ) の帯域制限について</p> <p>メーカー (Veritas社) に確認したところ、BackupExecは帯域制限に対応しておらず、Windows Server の QoS やスクリプトによる帯域制限も動作保証対象外となるとの回答でございました。</p> <p>また、バックアップ先をディスクストレージにした場合、世代データの対象ファイルを見分けることはできないとのことです。</p> <p>従いまして、Backup Execのコマンドレットによるスクリプト開発し世代毎にバックアップ先フォルダを分けるといった対応となりますが、開発が必要であり、メーカー動作保証対象外のため、保守メンテナンス時にメーカーへの問い合わせが出来ない状況となります。</p> <p>また、スクリプト開発とした場合は、BackupExec上で履歴確認や状況確認ができず、運用者への負担も大きくなる認識です。</p> <p>このことから、CiscoスイッチのQoSで遠隔地へのBackupExecデータ通信に帯域制限掛ける方法が、安全かつ確実な方法と考えます。</p> <p>上記Veritas社の回答に照らし合わせても、スクリプト実装で問題ないご認識でしょうか？ 恐れ入りますが、ご回答頂ければ幸いです。</p> <p>例) Veritas社の回答に照らし合わせても、スクリプトによる実装で問題ないご認識である。等</p>	<p>仕様書 4 - 4 - 2 (1) に記載のとおり、システムバックアップは、バックアップソフトウェアのジョブ機能を使用して同じ設置場所にあるバックアップサーバにバックアップを取得していただき、取得したバックアップデータは遠隔地のバックアップサーバにも転送いただくこととなります。帯域制限を行っていただくのは、この遠隔地のバックアップサーバへバックアップデータを転送いただく際となり、Windowsの機能 (robocopyコマンド等) 等を利用したスクリプトにより帯域制限を行ったうえでバックアップサーバにあるバックアップデータを遠隔地に転送することが実現できることを確認しています。</p> <p>以上を踏まえて、バックアップサーバから遠隔地へのデータ転送について、Windowsの機能等を利用したスクリプトによる実装で問題ないご認識です。</p> <p>なお、バックアップソフトウェアのジョブ機能を使用してバックアップ取得を行う部分については、保守サポート (問い合わせ対応等) が問題なく受けられることをVeritas社に確認しており、スクリプトにより転送処理を実装する場合、スクリプトの正常動作保証は、受注者にて担保していただく必要があります。</p> <p>補足となりますが、Backup Execの機能として、バックアップ先をディスクストレージに指定することは可能であり、且つ、保管期間を指定した世代管理が可能であることをVeritas社に確認しております。</p>